

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25330393

研究課題名(和文) 日本古典籍資料のメタ情報作成のための技能育成プログラム及び学習支援システムの開発

研究課題名(英文) A study on human resource development programme and learning support system for cataloguing of Early Japanese books

研究代表者

山中 秀夫 (YAMANAKA, HIDEO)

天理大学・人間学部・教授

研究者番号：60309523

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：2007年から2009年まで開催した「天理古典籍ワークショップ」の実績をもとに、日本古典籍資料の目録情報作成のための基礎的なトレーニング・システムについて研究した。まず、2013年に「天理古典籍ワークショップ Phase2」を実施し、前回とは異なり短期間でのトレーニングの方法で実践した。2回のワークショップの経験を踏まえて、実務上求められる知識や実際のトレーニングの方法を考究した。加えて、国際的な書誌情報採録ルールへの適応についても研究を行った。

研究成果の概要(英文)：Based on the experience of was held from 2007 to 2009, "Tenri Kotenseki Workshop (天理古典籍ワークショップ)", was researched for the basic training system for a cataloguing of Early Japanese books. First, implementing the "Tenri Kotenseki Workshop Phase2" in 2013, it was the practice in the training of the way in a short period of time unlike the last workshop. On the basis of two workshops of experience, I verified the required knowledge by the practical level, it has developed a method of practical training.

研究分野：図書館情報学

キーワード：日本古典籍資料 研修プログラム 能力開発 人材育成 書誌記述規則

1. 研究開始当初の背景

(1) 世界に散在する日本古典籍資料

日本古典籍資料は日本が世界に誇る文化的遺産・資産として極めて重要な資料である。種々の争乱や災害からの難を逃れ、様々な時代の多種多様な形態の多くの資料が保存されてきた。日本より遥かに多くの資料を生産したであろう中国や、15世紀の印刷術の発明以降に大量の資料が生産された西欧諸国に比しても勝るとも劣らない質量ともに豊富な文化遺産である。これまで日本古典籍資料の所蔵機関は、様々な形式で独自に目録を刊行してきた。それらをもとに総合目録として、『国書総目録』が刊行され、現在、オンラインでも提供されている。日本古典籍資料は同じ著作においても様々なタイトルを有したり、あるいは資料に著作の一部分のタイトルだけしか記載しなかったり、同じ資料でも表示されている場所によって異なったタイトルが記載されている場合もある。このように、タイトルが極めて不安定な日本古典籍資料において、『国書総目録』が行った事業は画期的なことであり、日本古典籍資料を利用する上では必要不可欠な資料となっていることは論を待たない。しかし、未だ収録されていない日本古典籍資料は多く、「国書」には50万収録されているが、少なくとも倍以上は存在する(中野三敏『江戸文化再生』)。他方、コンピュータ目録に移行している現在、冊子目録をもとにしたデータ収録方法では今後収録資料を拡大することは難しい。

(2) 日本古典籍資料の総合目録の構築

これまで日本古典籍資料所蔵機関は様々な形式で独自に目録を刊行してきた。それらをもとに総合目録として、『国書総目録』が刊行され、オンラインの「日本古典籍総合目録データベース」に引き継がれている。『国書総目録』は、個別に刊行された目録に記載のメタ情報を分析して、「作品単位」でのクオケーション機能をもった総合目録を作り上げた。日本古典籍資料は同じ著作においても様々なタイトルを有する場合も多く、タイトルが極めて不安定な日本古典籍資料において、『国書総目録』が行った事業は日本古典籍資料の特徴を考慮した重要な資料探索ツールであり、日本古典籍資料を利用する上では必要不可欠なものである。加えて、日本古典籍資料を日本文化研究の貴重な資料として活用するためには、可能な限り一元化された検索ツールで利用できることが必要であり、『国書総目録』も同様の考えから構築されたツールであると思料できる。

そのことを実現するには、実際に有効な目録データの採録・蓄積を行うことのできる人材育成が必要である。

(3) 書誌作成のための研修プログラム

有効な資料探索ツールとして必要なこと

は、実際の運用を通して有用性ある総合目録としての肉付けを行っていくことである。山中(研究代表者)は、諸機関の日本語資料担当者との交流から、日本古典籍資料の目録データベース化の必要性を再認識するとともに、人材育成のための場並びに研修プログラムの必要性を強く認識した。そのため山中を中心に日本古典籍資料目録作成のための研修プログラム「天理古典籍ワークショップ」(2007年から2009年の3年間)を開催した。国際交流基金等の助成を得て国外の担当者約20名を対象に、本学附属天理図書館を主会場として研修を実施した。研修会における参加者との懇談から、資料所蔵機関がメタ情報作成のための参考情報の調査環境が充分でないことが多く、ネットワークを通じた参考情報システムの必要性を認識した。メタ情報作成の際の参考知識共有のためのシステム構築を意図して、2010年度から2012年度まで科学研究費補助金(課題番号:22500224)の助成を受けて、「日本古典籍資料メタデータ作成支援のための知識共有システム開発に関する実証的研究」を進めた。

その間、ワークショップ受講者が所属機関等で日本古典籍資料目録の採録と提供を進め、また、受講者が結成した「在外日本古典籍研究会(OJAMASG: Overseas Japanese Antiquarian Materials Study Group)」における活動も始まった。しかし、対象資料から目録データを採録・蓄積していくための人材確保・育成の機会が少ない。日本古典籍資料に関する数少ない知識涵養プログラムとして、国立国会図書館・国文学研究資料館共催「日本古典籍講習会」がある。しかしながら、メタ情報採録を主にしたプログラムはなく、そのために研修内容についての研究も行われていないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究では、日本古典籍資料のメタ情報作成に資する基礎的な技能育成プログラムの開発と、その際に活用する学習支援システム・教材の開発と検証を主目的としている。

(1) 技能育成のための研修プログラムの開発

日本古典籍資料目録作成のための研修プログラム「天理古典籍ワークショップ」(2007年~2009年)を、本学附属天理図書館において開催した。ワークショップ終了直後から、今ワークショップに参加できなかったが、同様の研修プログラムへの参加を希望する専門職員が多数いることを知らされ、研修の機会がない場合にどのようにその知識と技術が涵養できるかなどの問い合わせがあった。先のワークショップの経験に基づき、さらに充実した日本古典籍資料のメタ情報作成のための基礎的な技能育成の研修プログラムの開発を目指した。

(2) 学習支援システム・教材の開発

日本古典籍資料のメタ情報を作成する過程において、多種多様な参考ツールや他機関が所蔵する関連資料との比較校合が必要となる。すべての分野をカバーすることはできないものの、典型的な例とともに特異な事例も含みながら、書誌情報採録の際に参考になる情報源とその特徴、使い方などをまとめた教材を、研修プログラムの開発に併せて作成を試みることにした。

3. 研究の方法

研究組織は山中単独の研究であるが、従来から共同で検討を進めている附属天理図書館の和古書目録担当者や海外の日本古典籍資料所蔵機関の担当者、及び国内の図書館情報学関係の専門職養成についての研究者と情報交換・情報共有しながら研究を行った。

(1) 「天理古典籍ワークショップ Phase2」のためのプログラム等の開発と実践

2007年～2009年に開催した「天理古典籍ワークショップ」の研修内容をもとに、2013年に開催した「Phase2」のプログラムを、天理図書館の岡嶋偉久子氏（研究協力者）とともに検討・設計し、必要な資料の収集と加工を行った。ワークショップ開催の際、前回ワークショップ参加者である、Izumi Tytler氏（研究協力者・オクスフォード大学ボードリアン日本図書館長）とHamish Todd氏（研究協力者・大英図書館日本部長）を招聘し、実施プログラムの検証を前回の相違点を中心に共同実施した。また、ワークショップ実施後、参加者からプログラムの問題点や、効果的に研修を行うために必要な情報や手段について、開催時のワークショップの検討会や帰国後に提出されたレポートをもとに、改善点の検証を行った。なお、「天理古典籍ワークショップ Phase2」は天理大学協賛の元、「天理古典籍ワークショップ実行委員会」が主催して開催した。

(2) 学習支援システムの教材収集と加工編集

2013年に実施のワークショップは、主に附属天理図書館所蔵資料を教材として用いている。しかしながら、学習支援システムには多様な例を搭載する必要があり、NACSIS-CATに蓄積された日本古典籍資料（中国古典籍資料も含む）約7万件の分析結果も含めて、他機関に所蔵する関連資料も搭載している。そのため、岡嶋氏の協力のもと、学習支援システムとして効果的な教材を収集するため、所蔵機関のデータを収集する作業も行った。併せて、「在外日本古典籍研究会（OTAMASG: Overseas Japanese Antiquarian Materials Study Group）」の所蔵資料についての情報収集も行った。現在までに山中が収集したデー

タや、刊行資料等に掲載されているデータも参考とした。

(3) 図書館情報学関連を中心とした専門職育成プログラムの調査

情報サービス職員やアーキビストなど、図書館情報学関連の専門職育成プログラムが行われている。ことに現職者を対象としたワークショップや研修プログラムなどの調査を行った。

例えば、参加者の知識・技能レベルの基準設定や実施期間、研修内容、研修方法、研修後の評価方法、学習支援のためのシステムなどを比較検討し、教材なども収集した。

4. 研究成果

本研究では、日本古典籍資料のメタ情報作成に資する基礎的な技能育成プログラムの開発と、その際に活用する学習支援システム・教材の開発と検証することを主目的としている。加えて、メタ情報作成のための書誌記述規則の改訂が行われており、研修プログラムへの影響等を検証した。

(1) 「天理古典籍ワークショップ Phase2」の開催

研修プログラムの実践である「天理古典籍ワークショップ Phase2」を2013年6月に10日間の日程で開催した。在外機関所属の専門家20名を対象に、2007年から2009年に開催した「天理古典籍ワークショップ」で実施した15日間の研修プログラムをもとに、現状で最も効果的に実施するための内容と方法を検討した。事前に前回のワークショップにも参加した研究協力者の意見も聴取して設計・準備を行った。

ワークショップ開催中、在外の研究協力者との意見交換も進めることができた。寄せられた意見としては、日本古典籍資料を所蔵する在外機関の実状、ことに目録作成上に必要な参考資料類の充足状況や作業遂行上の課題、横のつながり、相談機会の課題、また今後の研修機会の有無などであった。また、今回の研修に関して、研修時間の配分や研修方法、研修教材について指摘や希望などが寄せられた。

(2) 技能育成のための研修プログラムの開発

先に開催した1回目のワークショップでは、当初研修の全体像を設計して3年に区分し、さらに各年の研修内容を3年間かけて構築してきた。その経験をもとに、限られた時間で実施するために内容を精査し、研修プログラムとして必須の内容を中心に効果的な時間配分を検討した。

1回目の研修プログラムと比較すると、約65%の限られた時間内で「組織化のための講義」「実習」を中心にプログラム設計を行っ

たものの、組織化のために必要な知識を教授する時間を優先したために、「実習」の時間数は前回の約 55%にとどまった。

今回の研修プログラムは、日本古典籍資料を扱い、組織化していく上で必要な知識と実務的な技術を修得することを目的とした、極めて実務的な研修プログラムを設計した。その意味で研修内容として必要な項目は概ね絞り込むことができた。研修プログラムとして時間数を設計する上で大きな課題は、受講者の事前修得している知識と技術のレベルである。具体的内容としては、日本古典籍資料を対象としたときに限らず、資料組織化のための知識と技術、さらに日本古典籍資料を扱う上での特有の知識と技術である。前者については、本研修プログラムの対象外と考えている。後者についても、本研修プログラムで行う必要のあるものとあらかじめ修得しておくことを前提としたい内容がある。例えば、くずし字の解読能力などは日本古典籍資料を再録する上では修得が前提となる。

また、日本古典籍資料の書誌採録作業を実践していくなかで必要な周辺領域の知識も一定程度理解・修得していく必要がある。基本的な内容だけでも列挙すると膨大になるが、その中でも基本的で実務的に必要な内容は取り入れなければならない。その対象は、それぞれの所蔵機関の資料特性と関連する側面が大きく、十分に絞り込めることはできず、分野別に関連資料等を列挙し、それぞれの特徴とともに提示するにとどまった。

(3) 学習支援システム

ワークショップ開催に際して作成したテキストをもとに、ワークショップで撮影した動画、静止画を取り込み、資料を試作した。近年、国文学研究資料館が作成した資料¹⁾などいくつかの書誌学関連書籍²⁾などが刊行されている。内容的に問題の文献もあるが、基本的な文献のいくつかを紹介しつつ、「日本古典籍資料の組織化」を中心にした資料を作成した。

ワークショップで使用した資料や、関連する様々な事例を紹介した資料も参照しながら、日本古典籍資料の特徴を理解した上でその特徴をどのように記録すれば利用者（一般利用者以外に、他の所蔵館の資料担当者も含めて）が、目録情報として識別可能な情報となり得るかを解説している。著作権上の問題で一部の参加者以外には公開できていないが、今後デジタル化も含めて内容の充実を進めるべく、さらに検討を進める予定である。

(4) 新書誌記述規則への日本古典籍資料の適用

研修プログラム並びに学習支援システムで適用している書誌記述規則は、「国際標準書誌記述」ならびに「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」を基礎とし、国立情報学研究所目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) の諸基

準を援用して解説している。近年、書誌記述規則のための新しい潮流に沿って、諸規則が順次改訂されている。既に米国、英国はじめ多くの国が新基準による書誌記述規則が制定され、適用されている。

本研究でも日本古典籍資料の組織化のためルールの適用解説は非常に大きなウェイトを占める。ことに、「日本目録規則」は 2017 年度制定を目指して改訂が進められている。そのため、本研究においても大きな影響を受けることを鑑み、記述規則の変更に伴って、全体の枠組みだけでなく、規則の適応箇所の解説は再考しなければならない。

その一環として、既に新基準の適応を開始している諸国の古典籍への適応の考え方を検証するために国際図書館連盟主催の「国際図書館大会」並びに書誌記述規則を検討するサテライト会議に出席し、国際的動向を把握・認識するとともに、同会議の参加者から各国の状況を調査した。それらをもとに、新基準を日本古典籍資料に適応するに当たっての基本的な問題点を検証しまとめた。

・今後の展望

1 回目のワークショップの検証をもとに、研修プログラムと学習支援システムの構築を意識しながら、本研究期間中に 2 回目のワークショップを開催した。日本古典籍資料における記述対象資料の位置づけをある程度認識して、その特性を記録していくことは極めて大変な作業である。「同じ本」が 2 つと無いといわれる日本古典籍資料のひとつを眼前にして、分野や時代、資料としての来歴を考慮し、必要な参考資料からも情報を得つつ、書誌情報を採録しなければならない。そのための基礎の基礎を修得し、永年にわたって学び続けるためのきっかけを学ぶことができる機会になればと考えている。搭載した事例は、すべて異なる事例の一つに過ぎないことを理解しつつ、可能な限り事例を増やししながらさらに研修プログラムの検証と学習支援システムの充実を行っていきたいと考えている。

1) 人間文化研究機構国文学研究資料館編『和書のさまざま』和泉書院、2015、18、48p + CD-ROM1 枚

2) 以下のような文献がある

廣庭基介、長友千代治著『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社、1998、206p

井上宗雄 [ほか] 編著『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、1999、19、626、71p

川瀬一馬著；岡崎久司編『書誌学入門』雄松堂出版、2001、8、307p

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

山中秀夫 .和古書資料組織化の RDA 適用における基本的課題 .図書館学 , 緩やかな査読あり , 106 , 2015 , pp.27-34

山中秀夫 .和古書目録データ作成のための人材育成プログラムに関する研究 .図書館学 , 緩やかな査読あり , 104 , 2014 , pp.59-68

山中秀夫 .天理古典籍ワークショップ Phase2 を終え .ピブリア , 緩やかな査読あり , 140 , 2013 , pp.95-80

山中秀夫 .和古書資料組織化における課題 : 記述・典拠・識別 .TP&D フォーラムシリーズ , 査読あり , 22 , 2013 , pp.49-62

〔学会発表〕(計 2 件)

山中秀夫 .口頭発表:和古書資料組織化の RDA 適用における基本的課題 .西日本図書館学会平成 26 年度秋季研究発表会 , 2014 年 12 月 06 日 , 島根大学

山中秀夫 .口頭発表 : 和古書目録担当者の技能育成プログラムに関する研究 .西日本図書館学会平成 25 年度秋季研究発表会 , 2013 年 12 月 01 日 , ルルサス防府 (山口県防府市)

〔図書〕(計 2 件)

山中秀夫 他 .日本図書館協会 , 情報資源組織演習 .新訂版 , 2016 , 278p

山中秀夫 他 .日本図書館協会 , 情報資源組織演習 , 2014 , 270p

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

なし

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

山中 秀夫 (YAMANAKA HIDEO)

天理大学・人間学部・教授

研究者番号 : 60309523

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし